

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人側に立って援助し、尊敬される人としての人生を送ってもらい、家族や地域との交流を大切にする。		利用者一人一人の話を聞く時は、尊敬の意を示す。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも必ず、理念に触れ確認し合うようにしている。職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者の希望があれば、今まで暮らし続けてきた地域を見に行く。	○	自治会の行事やサロンへの場所提供をしたい。事業所の果たそうとしていること、果たしている役割を実践やパンフレット等を通して知ってもらいたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の商店主に、利用者の紹介	○	利用者の日用品や食材等を近所の商店で買い物し、暮らしの自立を目指したい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会への参加	○	自治会で毎月1回グランドゴルフをされているので、利用者の参加もお願いし、月1回交流したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方や、地域外の方に事業所がどんなふうに関わって役立つか職員で話し合っている	○	サロンの活動に参加し、地域活動や人々との関わりを積極的に持ちたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	曜日を決め、ミーティングで理念は活かされているか話し合っている		自己評価は職員全体で行い、外部の結果を踏まえ、改善に向けて検討や実践につなげる努力をします。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催して、委員会の皆様と、これからの施設運営はどうあるべきかなどを話し合い、取り組んでいます。		施設運営については毎回、利用者へのサービスが活かされているか話し合っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に直接面会して、現在の利用者の人数と取り組んでいることなどを報告し、適正な指導を受けている。		もっと市町村の担当と話し合いの場を持ちたいと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護保険を含めた福祉サービス等を適切に利用できない利用者に対して、本人との契約により福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理支援を実施。	○	研修会があれば職員がなるべく多く参加できるようにしたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議など日頃から虐待防止を徹底し、管理者として注意を払い、利用者と職員の関係を重視しています。比較的に利用者や職員が穏やかで家族的なため利用者は安心して暮らしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際や退居など、利用者本人の今後の生活など、家族等から聞きとり、又、家族の施設への疑問点などは十分な説明を行っています。	○	利用者の家族にアンケートを取ることを 検討しています。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今のところこれといった不安、苦情はないが、これから不安や苦情があれば すぐに対応できるようにする。		利用者や家族等の不満、苦情などは管理者を通じ運営者にも伝え、改善する点は改善していきます。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族等には定期的に電話などで利用者の日常生活など、細かく連絡するよう努めています。	○	職員会議で話せない事もあると思うので、無記名でアンケートとる
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族の訪問、部外者の見学があれば意見を聞くようにしている。そして、ミーティングの時に話し合うようにしている。		家族等の不満、苦情など管理者を通じ運営者にも伝え職員間で話し合い改善するところは改善したいと思います。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで、運営に関する職員の意見等は運営に反映させて、楽しく仕事が出来るよう努めています。	○	職員会議で話せない事もあると思うので無記名でアンケートをとる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務態勢については家族等が安心出来るような、勤務態勢をとり、勤務の調整に努めています。		今のところ勤務態勢は落ち着いていて、介護できる状態にあると思います。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職など、利用者には不安感を与えないよう最大努力し、他の職員が同等の支援を行うことが出来るよう努めています。		利用者は、特に職員のえりごのみはしない為、不安感は見られない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成についてはビデオなどで勉強し、研修会などに積極的に参加させ、段階に応じた育成に努めています。	○	他の施設に一日体験を検討している。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に持ち、互いの情報交換など学習づくりに励み、サービスの向上に努めています。		同業者との交流は励ましになっているようです。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に1回有給休暇を与え、心身ともにリフレッシュ気分転換を図っています。		職員には声をかけ、意見を聞くようにしている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	仕事に誇りを持ち、自信を持って働けるよう、職員会議などで一人ひとりの意見を聞き、向上心をもてるような人材づくりに取り組んでいます。		職員会議で少しでも苦情がでたら全員で話し合う。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に、本人の意見を多く引き出せるように努め、不安感や求めていることに必要最小限、受けとめ実行するよう努めています。		一人になることをしない、常に他の利用者との交流や職員との会話で安心させようとする。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に、家族の不安を取り除けるよう宿泊して、利用者と一緒に食事するなどして、施設に対しての信頼が得られるように努めています。		家族には、慣れるまではなるべく多く面会に来てほしいことを伝える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の要望を聞き、どのようなサービスが最も必要か確認し、取り組むように努めています。		他のサービス利用者には、家族もなるべく参加するように説明する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その時の状況などにより、サービスの変化を付けながら、本人が納得いくような工夫をし、安心出来るよう努めています。		慣れてきたら、他の利用者との交流もできるようにする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の個性に合わせ、支援していく。		介護しているという気持ちではなく、さりげない手助けと理解させ、利用者の話に耳を傾け、互いに喜怒哀楽を共有し支え合う関係になるよう、日頃より取り組んでいきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、常に連絡を取り合いながら利用者の様子を伝える。		利用者の家族も本人同様に、一方的な考えではなく、同じ視線でお互いが協力して利用者がいかに楽しく過ごせるかなど、同じ気持ちを持てるよう努めていきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族が、より一層よい関係になれるよう最大限支援して、いつでも仲良く面会も出来るよう支援しています。		利用者と家族のコミュニケーションがとれるように支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培った友人や職場の同僚だった方との交流の場になるよう支援に努めています。		親しい方達との関係を保ち、対人関係が続くようにする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が家族という認識を持てるようにし、孤立しないよう、させないように、常に食事は同じテーブルするなど、互いの絆を深めるように努めています。		一日、何回かは、利用者達の状態に合わせてレク、会話などを楽しむ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所され、在宅に戻られた利用者の方等の自宅訪問を行っている。		在宅生活の介護の相談にのる、近隣者との接触の機会を多く持つようにアドバイスする。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人なりの、これまでの生活を大切にして、本人が過ごしやすい環境づくりを行っています。		トイレ、風呂など利用者に理解を得て行うようにしている。本人の希望はよく聞き満足できる介護をする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろん、家族等近所の人達に、さりげなくこれまでの生活状態の情報を細かく集める。		不安の軽減と精神的安定を目指し、利用者との楽しいときが過ごせるようにする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの行動パターンを理解し、個々の生活に合った日常生活を守り、活かしている。		職員全員が利用者の性格や癖などを把握し快適な生活ができるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員はもちろん、家族や親戚の皆さんと意見交換し、利用者に合ったケアに努めています。		話し合いに参加できなかった家族や関係者には、文書で連絡し、話し合ったことの承諾を得て支援していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に現状に合ったケアプランを見直し、薬の変更など協力医療機関と連携し進めています。		担当者会議を開き、話し合いを持ち、ケアプランの変更を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日誌を作成し、1日の出来事などを細かく記入し、職員間の連携を密にし、情報を共有しています。		時々、ケアマネージャーも利用者達と一緒に会話をする。その中から気づかなかった部分があることがある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等が外泊を望む場合において、外泊届けを提出してもらい、外泊における事故などを想定し、理解してもらう。		施設での性格もよく説明し在宅で生活していた頃と変わっているところもあることを理解してもらう
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	家族の中には、施設にいることを気にされている方もいるため、他の機関との協力が難しい、最小限ボランティアはうけいれている。	○	今後、積極的に取り組んでいきたいと思います。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	前任のケアマネージャーとの意見の交換など、本人の情報をこと細かく収集して支援に努めています。	○	他の施設との交流を持ちわからない部分は話し合いをもって、勉強会をしていきたいと思っている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護などの支援者がいるため、生活センターの担当者とは協力し合い、協調を図っています。		対応が難しい場合は、地域包括支援センターに協力してもらう。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携をとり、利用者一人ひとりのカルテを作成してもらい、担当医より適正な指導を受けています。		ほとんどの利用者が、病院を利用しているため、受診や薬の管理は十分に気をつけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関での専門医により定期的に認知症に関する支援をしてもらっています。	○	できれば認知症については、受診日に家族も一緒に行ってくれたらもっと理解してくれると思います。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護職員の訪問などで、日常の健康管理の支援を受けています。		現在、利用している医療機関が協力的な為、安心して相談できています。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院など出来る限り、職員を医療機関に派遣して、医師から病状等の情報を集め、家族との連携を図り、早期退院できるよう努めています。		なるべく入院が長引かない様に家族にも協力してもらい、毎日様子を見に行く様にしています。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が入居するとき(契約時)に終末期のあり方に、ある程度話し合い、本人の要望を少しでも叶えることができるよう努めています。		利用者の家族の中には終末期を家で迎えたいとおっしゃる方もいたりするので、早めに担当医と相談します。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の方の容態が、悪化して重度化した場合は、協力医療機関との連携をとり、施設と病院が協力して早期回復に取り組んでいます。		なるべく、家族の方に協力してもらい、できたら毎日でも面会してもらおうように話します。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が入居する際に、本人に関わる情報を関係者から詳しく提供してもらい、本人の不安を取り除くことに努めています。		利用者の不安を和らげる人との関わりを密にし、言葉かけを多くします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーを守り、本人の記録等が、外部に漏れないよう保管には十分注意しています。		記録等が置いている部屋は、職員でも了解を得て入るようにしています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉がうまく話せない利用者に対しては、動作やしぐさなどで、その人の要望をすばやく理解するように職員全員でつとめています。		職員の中では時々理解できない時もあるので、職員間でも早く気づく様に、詳しい職員に聞くようにしています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	具体的な1日のプランは立てますが、予定通りにいかないのがよくあるので、一人ひとりのペースに合わせた1日を過ごせるようにつとめています。		外出できる方は、施設長に許可をもらい、20分くらいドライブすることもあります。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者がこれまでに親しんだ理容や美容の店に必ず行けるようにして、本人の気持ちの安らぎに努めています。		利用者から、美容室へ行きたいとの要望があれば、美容室で待つことがないように配慮します。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの体調や食事制限などがあり、その人に合った食事を提供して、楽しく食事が出来るように努めています。		今のところ利用者は食事の準備も後片づけが、うまくできないのでできるように徐々に慣れるようにしていきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	原則的に酒やたばこは禁止しています。おやつなどは一人ひとりの好きなものを知り、交互に提供するように努めています。		食事・おやつ類は種類を豊富に準備します。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	施設で一番に取り組んでいるのが、トイレの問題です。一人ひとりの生活習慣を知り、動作などで確認し、速やかにトイレに誘導するようにしています。		トイレに行きたい時、利用者は必ず何かのサインを出していると思われるので、本人に確かめ、ゆっくりと誘導します。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の予定はありますが、状況の変化により、その都度タイミングを図り、入浴させ、気持ちをリフレッシュさせるようつとめています。		ほとんどの利用者は、入浴するのが楽しみの様です。利用者は拒否することなく素直に入浴しています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夕食後はテレビを観たり、部屋で音楽を聴いたりして、21時頃消灯し、一人ひとりに声掛けし、安眠出来るように努めています。		昼食後はしばらくテレビを観てから、昼寝もしています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に応じた役割も考えながら、仕事を与え、喜びを感じとれるようよう支援しています。		毎日同じ事をするのを避けて、利用者の希望に沿った仕事をさせるようにしています。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者はほとんどお金はもっていません。尚、お金を所持している利用者に対しては、自分の好みの飲料以外は使わず、お金の大切さを理解させ、支援しています。		利用者の中には、とっでもしっかりとの方がいらっしゃいますが、現金を所持しているため、食事、トイレ以外は部屋からほとんど出ません。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブが好きな利用者にはドライブを、散歩が好きな利用者には散歩させたり、庭に座る利用者には庭の草むしりなど気分転換を図っています。		庭に出て、何かをすることは、とても良いことですので、利用者もいきいきとしています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	母の日や父の日など全員で外出して、海の近くなど自然の中でお弁当を食べたり楽しんでもらうようにしています。		外出する時、利用者の家族の方も参加すると良いのですが、中には家族のいない方もいらっしゃるなので、利用者だけになってしまいます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら家族に電話するときなども、気持ちよく話ができるように職員も電話を替わりながら支援しています。		利用者にとって、家族と話すのは、何よりも励みになるので、本人の希望を叶えるようにしています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜9時以降の面会は、本人の帰宅願望や動揺を与えるおそれがあるため、できるだけ日中に訪問してもらうようにしています。利用者全員の家族等が訪問しています。		面会は利用者にとって、何よりも嬉しいことなので、訪問してきた方に、たくさん訪問して話し相手になってくれることをお願いしています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者および職員には徹底して、身体拘束は禁止しており、また身体的拘束をしないを指導して、ケアには全力で取り組んでいます。一度も身体的拘束することはありませんし、必要もないです。		身体拘束を必要としない方達なので、拘束することはないです。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけると利用者が必要以上に不安感を与えるので、鍵はかけていません。また外へ出ても、職員が常に後方より確認して、徐々に声掛けして、戻れるようにしています。		全室鍵はかけていません。利用者が1日に何回も出入りしているため、鍵をかけられることにより、職員への信用が失ってしまいます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	24時間の介護施設としての役割があり、常に利用者の現在の様子を把握して、事故のないよう安全に努めています。		職員は常に目の届く位置にいますので、安全面において、職員は連絡を取り合いながら、ケアしています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人にとっては危険な物も、一人にとっては大切なものもあり、状況に応じて撤去したり、安全面に注意しています。		物品を撤去する場合は、利用者によく説明し、納得してもらっています。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、必ず利用して手が届くところに職員がいて、すぐに事故が防げるように取り組んでいます。		職員間で、最近の状態(たとえば外出しようとする)を伝え、話し合いをします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防の応急手当の研修会に参加しています。		応急手当など対応していますが、まだまだ不十分で、これから定期的に訓練が行えるよう努力したいです。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員間で担当を決め、地域の方々にも協力をお願いしています。		災害に対しても、これから地域の方達と協力できるよう、働きかけていきたいです。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	いろんなリスクがありますが、常に家族等との話し合いで、一つひとつ解決して、一方的なケアにならないよう努めています。		ケアに対し、家族からの要望がなければ、家族と話し合い、ケアを実践してみます。実践の結果は家族にも報告します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタリングや日中の体調の変化など、常に敏速に対応出来るよう、職員間で情報を共有し、早期の発見に努めています。		主治医に連絡し、受診が必要ならば、早めに受診させる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に服薬に対しては、慎重に気を配り、副作用や体調の変化などに気をつけてケアにあたっています。		薬が変わったり、副作用が出たりしたら受診し、職員全員に説明する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	3～4日便が出ない時は腹部マッサージを行っている。食事にも気を遣い海藻や水分を多めにするように努めています。		それでも便がでなければ、受診し、医師の判断をもらう。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入れ歯などは洗浄剤に入れ、うがいをさせて、常に口腔状態を清潔に保つように努めています。		食事の後とかは、入れ歯ははずし、嫌がる方にはうがいだけでもさせる。入眠時は入れ歯は預かる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた調理、極きざみ、とろみ使用。透析の方には塩分控えめ等の栄養指導を受けている。		利用者は、トイレに行くのを面倒に思いなるべく水分を取らないようにしている方もいるので気をつけて、十分な水分を摂れるようにする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を入所前に確認、ノロウイルス等予防のための手洗い、ハイターなどで手がかぶれるおそれのある場所全部の拭き掃除を毎日行っている。		今の所、感染症はでていないのでこれからも入浴中とかに確認する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等は使用し終了次第、熱湯消毒を行っています。		お茶碗とかも食べ物を入れる前に点検し使っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は広めにとり、明るさを考え親しみが持てるよう、周りに草花などを植えて、安らぎのある場所になっています。		敷地内には野菜等が植えられる畑があるので利用者に好きな物を植えてもらう。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所にいながら、全利用者の個室が見え、天窓もあり光も十分入れる工夫をしています。		共用の空間には、畳間もあり、職員が洋服等をたたんでいるとよく手伝ってくれる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はそれぞれ自分の安らぎの場所があり、独りになれたり、皆でテレビを観たり、折り紙などをして楽しんでいます。		利用者達はデイルームに出てくる時間がだいたい同じなのでレクリエーションをやることもある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋には使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、本人が気持ちよく過ごせるように家族と相談しながら工夫しています。		本人の家具のある部屋と一緒に掃除するようにしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	熱中症や冷え性などを考慮して、窓を開け空気の入れ換えをしたり空調の温度調節に気を配るよう努めています。		天気の良い日は、各部の窓を開け、光を取り入れるようにする。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来ることはなるべくじぶんでの体を動かすようにして、手助けが必要な時は、出来るだけ本人の気持ちを察しケアにあたっています。		歩行やイスに座る時は、特に気をつける。利用者は自分でできる時は手すり等を使って歩行訓練をしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ボール遊びやカード取りなど失敗しても笑えるような工夫をして、本人の能力を一つでも引き出すようなケアに努めています。		レクの中で、利用者が昔の遊びを職員にも教えたら、感謝の気持ちを示す。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の周囲は芝生があり、素足で歩けるよう危険物を取り除き、事故のないように努めています。		利用者が外に出た時は、必ず職員がつく。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム みなみ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者の個性を大事にする生活を支援。・利用者が安心して快適な生活ができるよう支援。・家族や地域とのつながりを大切にし、地域社会の一員としての生活を支援。

記入日:平成19年9月20日